

令和 7 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (4) 研究力の強化に関する事業 (教員の国際的な学会発表)

申請組織 生活科学部

申請組織長 役職名 生活科学部・学部長 氏名 藏澄 美仁 印

統括責任者 役職名 生活科学部・教授 氏名 本山 昇 印

課題名 International Cell Senescence Association 主催 ICSA2025Rome における研究発表
と意見交換

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	本山 昇	生活科学部・教授	研究成果発表と意見交換および情報収集

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字~300 字程度で記述)

日本は超高齢化社会に突入しており、健康寿命の延伸が重要な課題となっている。加齢とともに蓄積する老化細胞および老化細胞から炎症性サイトカインなど種々の生理活性因子の分泌 (SASP) は、個体レベルの老化および老年病の発症に密接に関係していることが明らかになってきた。またマウスにおいては、老化細胞の特異的選択的除去 (Senolysis) および SASP の抑制によって、老化・老年病発症が遅延することが報告され、Senolytic 薬および Senomorphic 薬の開発が盛んになっている。しかしながら、医薬品は副作用のリスク、予防薬としての問題などがある。そこで申請者は、食品および天然物の含まれる生理機能因子に着目し、栄養の側面から健康寿命の延長に寄与できる成分の探索を行ってきた。今研究課題では、申請者が探索研究を行い細胞老化・SASP に抑制効果があることを明らかにしてきた食品・生理活性因子について International Cell Senescence Association 主催 ICSA2025 Rome にて発表するとともに、最新の情報収集および海外の研究者との意見交換を行うことが目的である。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

International Cell Senescence Association (ICSA) は、細胞老化に特化した組織で、世界の第一人者を含む細胞老化研究者が所属する国際学術組織である。International Cell Senescence Association 主催 ICSA2025 Rome は、細胞老化に着目し、ヒトの老化、老年病、および介入をトピックスとした老化と代謝について、世界中から最先端の研究者が一同に介し、最新の研究が発表される研究集会である。この研究集会において、研究成果の発表を行い、意見交換を行うことによって、老化に関する最先端の知見が得られることが期待できる。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

International Cell Senescence Association 主催 ICOSA2025 Rome において, Noboru Motoyama, Tomohisa Hayakawa. “SIRT1-driven maturation of p21 mRNA attenuates ATM-CHK2 signaling and the senescence-associated secretory phenotype”の研究成果についてポスター発表を行った。この研究発表について, 数多くの海外の研究者と意見交換を行った。また, 細胞老化研究の最先端の研究発表を聴講し, 最新の情報を数多く得ることができた。この研究集会を通して, 海外の研究者との研究交流を行うこともできた。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①細胞老化	②老化	③SASP	④がん
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。また、イベント等実施の場合はその参加人数 (外部・内部) についても明記すること。)

International Cell Senescence Association 主催 ICOSA2025 Rome において, 研究成果についてポスター発表を行うことができた。また, 多くの研究者と意見交換を行い, 研究課題における問題点やヒントを得ることができたので, 今後の研究の推進に活かしたい。また, 細胞老化関連について最新の情報を得ることができたので, 卒業研究などの教育はもちろん, 講義や実験の授業にもそれらを活かし, 学生の教育にも貢献していきたいと思う。